

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			心理学	心理学全般について理解する	1 年 通	45	3	○			○		○		
2	○			業務運営管理 学	臨床の現場で役立つマネジメントについて 調べ、理解する。	2 年 後	30	2	○	△		○		○		
3	○			社会の理解	社会の一員として必要とされる法制度およ びモラルやマナーの習得、さらに医療従事 者としての倫理観や人の尊厳、自立やノー マライゼーションについて学ぶ。	1 年 前	30	2	○			○			○	
4	○			社会福祉概論	社会福祉の歴史と成り立ちをたどり、理念 や価値が社会の変動によって変化・成立し てきたことを学習する。	1 年 後	30	2	○	△		○			○	
5	○			物理学	物理学の基礎的な事項を学習する。	1 年 前	45	3	○			○			○	
6	○			統計学	保健・医療関係で必要とされる確率統計の 基礎と実用的側面を重視した統計方法を理 解する。	1 年 後	45	3	○			○			○	
7	○			保健体育実技	多種多様なスポーツを通じて、体力保持増 進を図るだけでなく、健康に留意する実践 力、集団での協調性や責任感を育む。	1 年 通	30	1			○	○	○			
8	○			英語	英語の発音の基礎を学び、自ら発音でき るようにする。英文の基本構文を理解する。	1 年 前	30	2	○			○			○	
9	○			解剖学Ⅰ	人体の正常な構造と機能を理解する。	1 年 通	30	1	○			○			○	
10	○			解剖学Ⅱ	人体の正常な構造と機能を理解するととも に、器官・組織別により詳細な理解を深め る。	1 年 通	90	3	○			○			○	
11	○			組織学	人体の基本である細胞・器官・構造を学 び、その特徴と機能を理解する。	1 年 前	30	1	○			○			○	

12	○		解剖学実習	講義で学んだ平面的なイメージを活かし、三次元構造での人体へのイメージを学ぶ。	1年後	45	1			○	○	○	○
13	○		生理学	医療従事者にとって必要な人体の正常な反応を理解する。	1年通	90	3	○			○		○
14	○		生化学Ⅰ	生体に存在する化学物質と、それらがどのように生体を構成しているかなど、基礎的な事項について学ぶ。	1年前	30	1	○			○		○
15	○		生化学Ⅱ	1年通に学んだ基礎をもとに、物質代謝についてさらに詳細な機序や臨床における生化学の重要性について理解する。	2年後	30	1	○			○		○
16	○		生理学実習	講義をもとに、健常者同士での機能測定を経験・分析し、人体の正常な反応を理解する。	1年通	45	1			○	○	○	○
17	○		運動学Ⅰ	身体における生体力学を理解する。関節運動・動作について理解する。	1年通	60	2	○	△		○		○
18	○		運動学Ⅱ	1年通に引き続き、人体構造と機能について、運動器を中心に理解を深める。	2年通	60	2	○	△		○		○
19	○		人間発達学	運動機能面では乳児期を中心に、心理面では生涯発達の観点まで入れてヒトの発達について学ぶ。	1年後	30	1	○			○		○
20	○		病理学概論	疾患の原因、成り立ち、経過などについて各臓器組織の差を越えて共通にみられる病変を病理画像所見とともに理解する。	1年後	30	1	○			○		○
21	○		臨床心理学	学生自身の人間関係や患者とのコミュニケーション方法を理解する。	3年後	30	1	○			○		○
22	○		医療学概論	医学とはどのようなものなのかを理解する。	1年通	30	1	○	△		○		○
23	○		一般臨床医学	疾患各論を学ぶ前に、臨床での全般的な疾患についての知識、疾患の特徴を表す画像や、薬・栄養学的観点も含めて理解する。	1年後	30	1	○			○		○
24	○		内科学Ⅰ	臨床医学の基礎である内科について理解する。循環器、呼吸器などについて理解を深める。	2年前	30	1	○			○		○
25	○		内科学Ⅱ	臨床医学の基礎である内科について理解する。感染症、治療薬などについて理解を深める。	2年後	30	1	○			○		○
26	○		整形外科Ⅰ	運動器疾患、障害の臨床について各疾患の画像を用いりながら、理解する。	2年前	30	1	○			○		○

40	○		卒業研究	理学療法士として自分の考えを立証していく過程を、ゼミ形式をとり、指導教員とコミュニケーションを取りながら、自ら実践する。	3 年通 4 年前	90	3			○	○	○						
41	○		理学療法管理学Ⅰ	専門分野としての理学療法部門における業務を効率よく運営するため、必要な組織的な管理や機能について学び、専門職としての理学療法の位置付けについて考える。	3 年前	30	1	○			○	○						
42	○		理学療法管理学Ⅱ	社会からリハビリテーションや、理学療法士がどのように捉えられているのかも学ぶ中で、疾病予防及び健康増進に関する取り組みの役割について理解する。また、代謝性疾患、特に糖尿病の運動療法に関する基礎的な知識についても理解する。	4 年前	30	1	○			○	○						
43	○		臨床運動学	人体構造と機能について、運動器を中心に、病的状態について触れつつ、正常な状態を理解する。	3 年通	60	2	○		△	○	○						
44	○		理学療法評価法Ⅰ	理学療法評価に関する専門知識及び技術を習得し、問題点の把握・治療プログラムの立案・効果判定などの重要な情報として活用できるよう講義や実技から理解度を高める	2 年通	90	3	△		○	○	○						
45	○		理学療法評価法Ⅱ	各検査項目の意義と理解、技術の習得。情報の収集・分析能力を高め、治療方針の立案、治療効果の確認を的確に行えるようにする。また、各評価が対象となる疾患の画像を紹介していくので、症状と評価の結果の関連について理解する。	3 年通	90	3	△		○	○	○						
46	○		運動療法Ⅰ 総論	基礎知識の確認も含め、運動療法の基本的概念の理解を深めて知識と技術を理解する。	2 年前	30	1	○		△	○	○						
47	○		運動療法Ⅱ 整形外科疾患	整形外科疾患の意義と理解、各疾患の治療技術の習得。治療方針の立案、治療効果の確認を的確に行えるようにする。	3 年通	60	2	○			○	○						
48	○		運動療法Ⅲ 脊髄損傷	脊髄損傷に関する運動療法の基礎を理解する。	3 年後	30	1	○			○	○						
49	○		運動療法Ⅳ 小児疾患	理学療法の対象となる脳性麻痺・発達障害児・神経筋疾患などの児童への支援や運動発達・生活について理解する。	3 年通	60	2	○			○	○						
50	○		運動療法Ⅴ 呼吸器疾患・他	代表的な呼吸・代謝・腎疾患の病態と、それぞれに対する基本的な理学療法を理解できる。呼吸理学療法手技の定義、適応・禁忌を理解し、実施できる。	3 年後	30	1	○		△	○	○						
51	○		運動療法Ⅵ 循環器疾患	酸素搬送障害に対し適切な評価と理学療法、及び患者指導ができるよう、基礎知識や病態生理を理解し、関連する理論と技術を学ぶ。	3 年後	30	1	○			○	○						
52	○		運動療法Ⅶ 中枢神経疾患	中枢神経系疾患患者の動きを模倣でき、治療選択の根拠や、治療の立案について考えを広げられるようになる。	3 年前	30	1	○			○	○						

67	○		臨床実習Ⅰ	臨床実習Ⅰは、専門基礎科目、専門科目履修の前に、学習活動の認識を高めるとともに、指導者の患者への対応の様子などを見学させてもらうことで、「理学療法」「理学療法士」とは何かを理解できるよう実習する。	2年後	80	2			○	○	○	○
68	○		臨床実習Ⅱ	実習施設における理学療法、及び理学療法士の役割・機能を学ぶ。収集した情報に基づいて理学療法評価を行い、問題点の揭示・目標（長期及び短期）の設定・理学療法計画の立案する。理学療法士として必要な事項の記録・報告能力を身につける。理学療法士としての基本的態度を習得する。	3年後	##	5			○	○	○	○
69	○		臨床実習Ⅲ	学内で習得した理論と技術等の知識に加えて、臨床場面で実習指導者の理学療法実践に参加体験し、理学療法の基本原則・技術を認識する。3学年次の実習目的の更に発展させたアプローチを工夫する。	4年通	##	14			○	○	○	○
70	○		地域実習	地域リハビリテーション施設における理学療法士の多様な役割を学び、保健福祉領域におけるその在り方について実践を通して理解する。生活のイメージの構築、施設等応用実践領域の得意性の理解日常生活について臨床経験を通して学ぶ機会を得る。	4年通	40	1			○	○	○	○
71	○		PNFⅠ	人の正しい反応を引き出し、導き出すためのPNFコンセプトを十分理解していく。	3年後	30	1	○		△	○		○
72	○		PNFⅡ	PNFⅠで学んだ基礎・概念をもとに、人の正しい反応を引き出し、促通する事ができるようになる。	4年前	30	1	○		△	○		○
73	○		特殊理学療法	スポーツ障害に対する基礎的な考え方を学び、実際の技術も知る。臨床での考え方を学び、その技術を知る。	4年前	60	2	○		△	○		○
74	○		文献抄読	理学療法士としての学習に際して必要な文献を検索・取得する。臨床研究を行う際の文献を収集することができる。自らが研究する際に必要な事項を学ぶ。	2年前	30	1	○			○		○
75	○		総合理学療法Ⅰ	国家試験問題を例題として理学療法士として学んできた知識・技術の再確認と、統合を行う。	4年通	60	2			○	○	○	
76	○		総合理学療法Ⅱ	国家試験の合格レベルは、理学療法士の専門性を担保できるレベルといわれるが、模擬試験や、グループ学習を通して、専門性に関して自分なりに考え、他者に説明できるようになる。	4年通	60	2			○	○	○	
合計					76	科目	124 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学生は学則で定められた総単位数124単位の認定を受けていない者は、卒業することができない。その場合、卒業延期となり、要件を満たした年度に再度、卒業判定会議にて判定を受けること。		1 学年の学期区分	2 期

<p>学生は授業科目ごとの学則に定められた授業時間数の3分の2以上に出席しなければならない。</p> <p>履修方法： 実習に関しては学則で定められた授業時間数の全てに出席することを原則とする。やむを得ない事情により欠席する場合は、事前に（やむを得ない場合には、事後すみやかに）学院及び実習指導者にその旨を連絡し、欠席届けを提出する。実習の課題修了のために補習が必要と認められた場合には補習を行うことがある。</p> <p>成績の評価は優（A）：100～80点、良（B）：79～70点、可（C）：69～60点、不可（D）：60点未満とする。優（A）、良（B）、可（C）を合格、不可（D）を不合格とする。</p>	<p>1学期の授業期間</p>	<p>22週</p>
---	-----------------	------------

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。